

令和5年度

(令和4年10月～令和5年9月)

環境経営レポート

令和5年12月20日 作成

山崎機工株式会社

目 次

項 目

目次	2
1. 会社・事業の概要	3～4
2. 環境経営方針	5
3. エコアクション 21 実施体制	6
4. 環境保全活動の実践	7
① 環境への負荷低減目標と実績	7～10
二酸化炭素排出量に関する項目		
総廃棄物排出量の削減		
総排水量の削減		
② 営業拠点別主要指標		11
③ 環境保全活動の経過推移（全社過去5年のグラフ化）		12
5. 環境への負荷低減のための具体的取組と評価		
・次年度の取組内容	13～14
6. 緊急事態への準備、及び対応	14
7. 環境関連法規への違反・訴訟等の有無	14
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	15

1. 会社・事業の概要

- 事業所名 山崎機工株式会社
代表取締役社長 山崎 均
- 本社所在地 富山県富山市針原中町 503 番地
- 関連事業所 入善営業所 富山県下新川郡入善町道古 59
高岡営業所 富山県高岡市宝来町 824
金沢営業所 石川県白山市小上町 112
- 対象範囲 全組織・全活動を認証・登録の対象範囲とする
- 創業・設立 昭和 23 年 11 月 創業 / 昭和 34 年 12 月 設立
- 資本金 45,000 千円
- 決算期 9 月
- 事業内容 無人化・省力化システムをはじめとする産業機械・工作機械及び周辺機器類・その他物流システム用品の総合商社
- 事業所規模

項目		R元年9月期	R2年9月期	R3年9月期	R4年9月期	R5年9月期
売上高 (百万円)	本社	2,759	1,968	2,323	2,949	2,955
	入善	677	480	512	598	502
	高岡	1,131	836	661	942	732
	金沢	434	319	367	303	307
従業員 (人)	本社	30	29	28	27	26
	入善	7	6	6	7	5
	高岡	7	7	6	5	6
	金沢	5	4	4	5	4
床面積 (㎡)	本社	1,998	1,998	1,998	1,998	1,998
	入善	364	364	364	364	364
	高岡	168	168	168	168	168
	金沢	161	161	161	161	161

■環境保全関係の最高責任者・環境管理責任者・推進委員及び連絡先

最高責任者	山 崎 均	代表取締役社長
環境管理責任者兼総務課推進委員長	蜷 川 士 郎	総務課課長
営業本部長	山 崎 和 哉	営業部取締役
営業部推進委員長	板木平 雄二	本社営業部取締役営業部長
業務課推進委員長	舟 崎 俊 一	業務課課長
営業部推進副委員長	奥 井 裕 二	本社営業部マネージャー
営業部推進副委員長	永 森 聡 志	本社営業部グループリーダー
営業部推進副委員長	加 藤 弘 康	本社営業部グループリーダー
営業部推進委員長	藤 木 雄 介	入善営業所所長
営業部推進委員長	湊 裕 也	高岡営業所所長
営業部推進委員長	赤 井 義 紀	金沢営業所所長

T E L 076-451-8001 F A X 076-451-8855

E-mail : soumu@yamazaki-kiko.com

URL : <https://www.yamazaki-kiko.com>

2. 環境経営方針

〔環境理念〕

山崎機工株式会社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題のひとつであることを認識し、企業活動のあらゆる面で環境の保全に配慮して行動する。

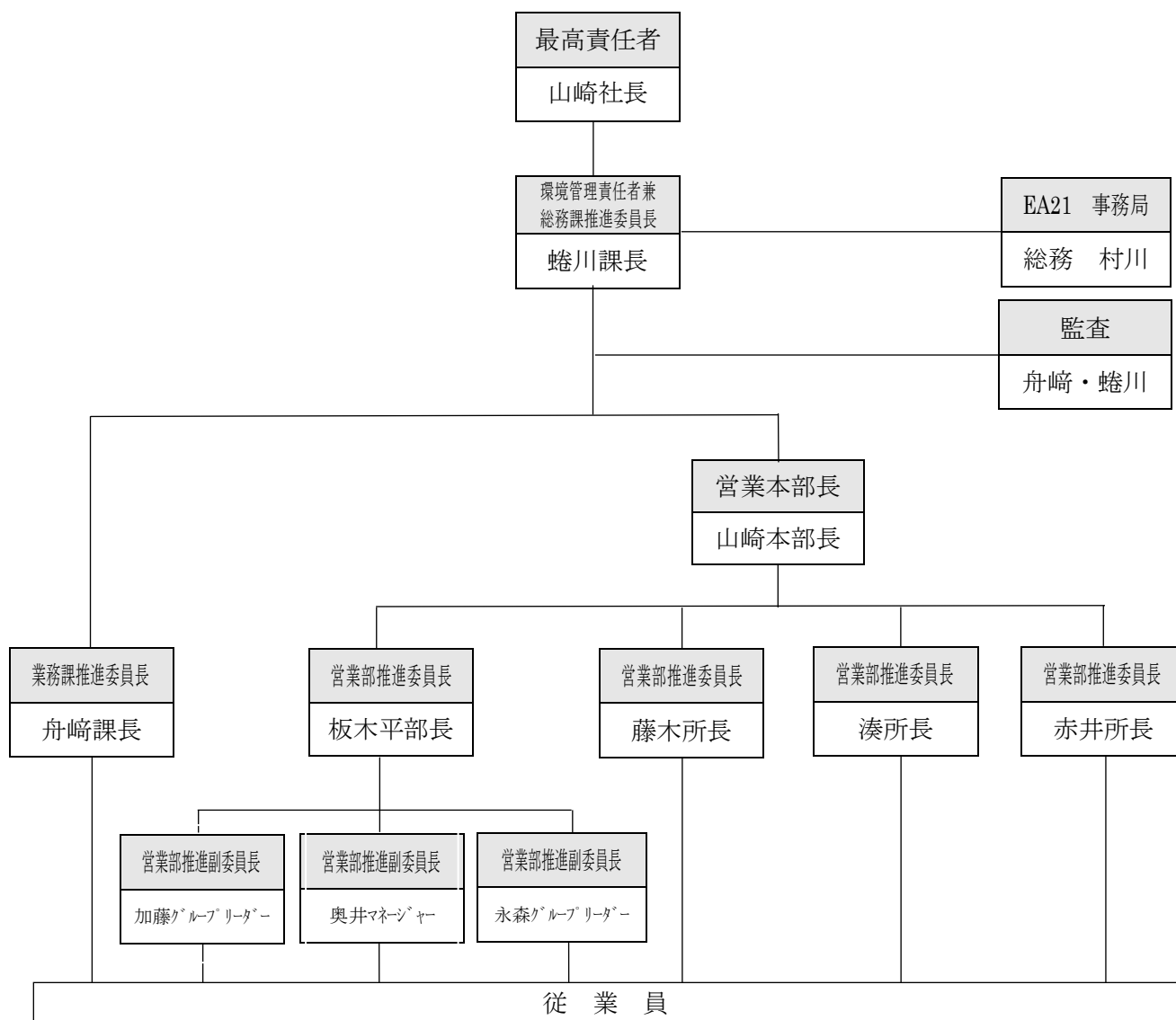
〔環境方針〕

1. 企業活動が環境に与える影響を的確に捉え、可能な範囲で環境目的・目標を定めて、環境保全活動の質の継続的な向上を図る。
2. 環境関連の法律、規制などを遵守し、さらに社内ルールを定めて一層の環境保全に取り組む。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物、排水量の削減に企業活動の全ての領域で取り組む。
4. 省人・省力化商材や、カーボンニュートラルにつながる工程集約商品の最新情報を提供し、採用・拡販することで可能な限り環境負荷の低減に貢献する。
5. 環境に関する社会活動により、地域社会に貢献する。
6. 環境教育や社内広報活動等を実施し、従業員の環境基本方針の理解と、環境に関する意識向上を図る。
7. 環境管理の実施状況については環境活動レポートを作成し公開する。

平成 20 年 6 月 28 日 作成
令和 元年 5 月 31 日 改訂
令和 5 年 4 月 3 日 改訂

山崎機工株式会社
代表取締役社長 山崎 均

3. エコアクション21 実施体制



- | | |
|---------|--|
| 最高責任者 | 環境マネジメントを行っていく上で、全体的な取組状況について把握・評価し、必要な指示をする。 |
| 環境管理責任者 | エコアクション21の計画や目標を構築・運用し取り組み状況を最高責任者に報告する。環境活動レポートを取りまとめる。 |
| 営業本部長 | 環境管理責任者をサポートし、営業部内4拠点を取りまとめる。 |
| 推進委員長 | 営業本部長をサポートし、各部署において環境活動計画を実行する。 |
| 推進副委員長 | 推進委員長をサポートし、各推進担当者への指示、アドバイスを行う。 |
| 従業員 | 推進副委員長及び運営委員責任者より指示・アドバイスを受け、各項目毎の環境活動計画を推進実行する。 |

※EA21 運営委員会は状況を見ながら都度召集する。個別推進項目には、担当者以外に運営委員のスタッフが必ず責任者として入るものとする。

4. 環境保全活動の実践

①環境への負荷低減目標と実績

当期は令和3年9月期の実績数値を基準年としました。

当期間中の購入電力排出係数については、令和3年北陸電力株式会社調整後排出係数(0.484kg-CO₂/kwh)を適用し、目標達成の判定基準は下記表によることとしました。

尚、化学物質等の使用はありません。

目標達成の判定基準	◎	達成率 120%以上
	○	達成率 100～120%未満
	△	達成率 80～100%未満
	×	達成率 80%未満

二酸化炭素排出量に関する項目

項目 (単位)	所課	【基準年】 R3.9期 実績	R5.9期 目標 (基準年比削減率)	R5.9期 実績 (基準年比削減率)	目標 達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)			
						【基準年】 R3.9期 実績	R6.9	R7.9	R8.9
電気 使用量	本社	36,915kwh	35,100kwh (△4.9%)	29,216kwh (△20.9%)	○ 116.8%	36,915kwh	33,000kwh (△10.6%)	31,000kwh (△16.0%)	29,000kwh (△21.4%)
	入善	3,605kwh	5,600kwh (+55.3%)	4,830kwh (+34.0%)	○ 113.8%	3,605kwh	5,000kwh (+38.7%)	4,800kwh (+33.2%)	4,600kwh (+27.6%)
	高岡	4,323kwh	4,300kwh (△0.5%)	4,519kwh (+4.5%)	△ 94.9%	4,323kwh	4,200kwh (△2.8%)	4,100kwh (△5.2%)	4,000kwh (△7.4%)
	金沢	2,564kwh	2,570kwh (+0.2%)	3,433kwh (+33.9%)	× 66.4%	2,564kwh	2,560kwh (△0.2%)	2,550kwh (△0.5%)	2,540kwh (△0.9%)
	全社	47,407kwh	47,570kwh (+0.3%)	41,998kwh (△11.4%)	○ 111.7%	47,407kwh	44,760kwh (△5.6%)	42,405kwh (△10.5%)	40,140kwh (△15.3%)
灯油 使用量	本社	364ℓ	190ℓ (△47.8%)	157ℓ (△56.9%)	○ 117.4%	364ℓ	190ℓ (△47.8%)	190ℓ (△47.8%)	180ℓ (△50.5%)
	入善	568ℓ	200ℓ (△64.8%)	205ℓ (△63.9%)	△ 97.5%	568ℓ	200ℓ (△64.8%)	200ℓ (△64.8%)	200ℓ (△64.8%)
	高岡	600ℓ	600ℓ (±0%)	206ℓ (△65.7%)	◎ 165.7%	600ℓ	600ℓ (±0%)	580ℓ (△3.3%)	580ℓ (△3.3%)
	金沢	348ℓ	340ℓ (△2.3%)	340ℓ (△2.3%)	○ 100.0%	348ℓ	340ℓ (△2.3%)	340ℓ (△2.3%)	340ℓ (△2.3%)
	全社	1,880ℓ	1,330ℓ (△29.3%)	908ℓ (△51.7%)	◎ 131.7%	1,880ℓ	1,330ℓ (△29.3%)	1,310ℓ (△30.3%)	1,300ℓ (△30.9%)

項目 (単位)	所課	【基準年】 R3.9期 実績	R5.9期 目標 (基準年比削減率)	R5.9期 実績 (基準年比削減率)	目標 達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)			
						【基準年】 R3.9期 実績	R6.9	R7.9	R8.9
LPG 使用量	本社	15.32kg	14.7kg (△4.0%)	12.6kg (△17.8%)	○ 114.3%	15.32kg	14.0kg (△8.6%)	13.0kg (△15.1%)	12.5kg (△18.4%)
	入善	0.27kg	0.27kg (±0%)	0.25kg (△7.4%)	○ 107.4%	0.27kg	0.25kg (△7.4%)	0.25kg (△7.4%)	0.24kg (△11.1%)
	高岡	4.16kg	3.21kg (△22.8%)	2.48kg (△40.4%)	◎ 122.7%	4.16kg	3.0kg (△27.9%)	2.6kg (△37.5%)	2.4kg (△42.3%)
	金沢	0.17kg	0.21kg (+23.5%)	0.25kg (+47.1%)	△ 81.0%	0.17kg	0.20kg (+17.6%)	0.19kg (+5.9%)	0.17kg (±0%)
	全社	19.92kg	18.39kg (△7.7%)	15.58kg (△21.8%)	○ 115.3%	19.92kg	17.45kg (△12.4%)	16.04kg (△19.5%)	15.31kg (△23.1%)
ガソリン 使用量	本社	18,530ℓ	15,960ℓ (△13.9%)	16,144ℓ (△12.9%)	△ 98.8%	18,530ℓ	16,000ℓ (△13.7%)	15,900ℓ (△14.2%)	15,800ℓ (△14.7%)
	入善	5,539ℓ	6,500ℓ (+17.3%)	6,016ℓ (+8.6%)	○ 107.4%	5,539ℓ	6,000ℓ (+8.3%)	5,800ℓ (+4.7%)	5,500ℓ (△0.7%)
	高岡	7,882ℓ	5,300ℓ (△32.8%)	6,041ℓ (△23.4%)	△ 86.0%	7,882ℓ	5,700ℓ (△27.7%)	5,400ℓ (△31.5%)	5,100ℓ (△35.3%)
	金沢	3,417ℓ	3,600ℓ (+5.4%)	3,389ℓ (△0.8%)	○ 105.9%	3,417ℓ	3,500ℓ (+2.4%)	3,400ℓ (△0.5%)	3,300ℓ (△3.4%)
	全社	35,368ℓ	31,360ℓ (△11.3%)	31,590ℓ (△10.7%)	△ 99.3%	35,368ℓ	31,300ℓ (△11.5%)	30,500ℓ (△13.8%)	29,700ℓ (△16.0%)

項目 (単位)	所課	【基準年】 R3.9期 実績	R5.9期 目標 (基準年比削減率)	R5.9期 実績 (基準年比削減率)	目標達成 の判定
総二酸化 炭素 排出量 (kg-CO ₂)	本社	61,809kg-CO ₂	54,532kg-CO ₂ (△11.8%)	52,024kg-CO ₂ (△15.8%)	○ 104.6%
	入善	16,010kg-CO ₂	18,289kg-CO ₂ (+14.2%)	16,806kg-CO ₂ (+5.0%)	○ 108.1%
	高岡	21,885kg-CO ₂	15,881kg-CO ₂ (△27.4%)	16,723kg-CO ₂ (△23.6%)	△ 94.7%
	金沢	10,036kg-CO ₂	10,444kg-CO ₂ (+4.1%)	10,372kg-CO ₂ (+3.3%)	○ 100.7%
	全社	109,740kg-CO ₂	99,146kg-CO ₂ (△9.7%)	95,925kg-CO ₂ (△12.6%)	○ 103.2%

総廃棄物排出量の削減

項目 (単位)	所課	【基準年】 R3.9期 実績	R5.9期 目標 (基準年比削減率)	R5.9期 実績 (基準年比削減率)	目標 達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)			
						【基準年】 R3.9期 実績	R6.9	R7.9	R8.9
紙類	本社	3,130kg	3400kg (+8.6%)	3,770kg (+20.4%)	△ 89.1%	3,130kg	3,300kg (+5.4%)	3,200kg (+2.2%)	3,100kg (△1.0%)
	入善	750kg	750kg (±0%)	555kg (△26.0%)	◎ 126.0%	750kg	730kg (△2.7%)	700kg (△6.7%)	670kg (△10.7%)
	高岡	890kg	860kg (△3.4%)	750kg (△15.7%)	○ 112.8%	890kg	800kg (△10.1%)	750kg (△15.7%)	750kg (△15.7%)
	金沢	543.7kg	500kg (△8.0%)	644.9kg (+18.6%)	× 71.0%	543.7kg	540kg (△0.7%)	500kg (△8.0%)	500kg (△8.0%)
	全社	5,313.7kg	5,510kg (+3.7%)	5,719.9kg (+7.6%)	△ 96.2%	5,313.7kg	5,360kg (+1.1%)	5,150kg (△3.1%)	5,020kg (△5.5%)
事業系 一般 廃棄物	本社	407.4kg	320kg (△21.5%)	336.8kg (△17.3%)	△ 94.8%	407.4kg	320kg (△21.5%)	320kg (△21.5%)	320kg (△21.5%)
	入善	19.2kg	15kg (△21.9%)	13.4kg (△30.2%)	○ 110.7%	19.2kg	15kg (△21.9%)	15kg (△21.9%)	14kg (△27.1%)
	高岡	58.5kg	45kg (△23.1%)	41kg (△29.9%)	○ 108.9%	58.5kg	40kg (△31.6%)	40kg (△31.6%)	35kg (△40.2%)
	金沢	22.5kg	22kg (△2.2%)	21.6kg (△4.0%)	○ 101.8%	22.5kg	22kg (△2.2%)	21kg (△6.7%)	20kg (△11.1%)
	全社	507.6kg	402kg (△20.8%)	412.8kg (△18.7%)	△ 97.3%	507.6kg	397kg (△21.8%)	396kg (△22.0%)	389kg (△23.4%)
産業 廃棄物	本社	159.6kg	154kg (△3.5%)	162.9kg (+2.1%)	△ 94.2%	159.6kg	154kg (△3.5%)	150kg (△6.0%)	150kg (△6.0%)
	入善	13.5kg	10kg (△25.9%)	11kg (△18.5%)	△ 90.0%	13.5kg	10kg (△25.9%)	10kg (△25.9%)	10kg (△25.9%)
	高岡	30.1kg	30kg (△0.3%)	104.6kg (+247.5%)	×× 0%	30.1kg	30kg (△0.3%)	28kg (△7.0%)	26kg (△13.6%)
	金沢	25.4kg	11.5kg (△54.7%)	12.85kg (△49.4%)	△ 88.3%	25.4kg	11.5kg (△54.7%)	11.5kg (△54.7%)	11.5kg (△54.7%)
	全社	228.6kg	205.5kg (△10.1%)	291.35kg (+27.4%)	× 58.2%	228.6kg	205.5kg (△10.1%)	199.5kg (△12.7%)	197.5kg (△13.6%)

項目 (単位)	所課	【基準年】 R3.9期 実績	R5.9期 目標 (基準年比削減率)	R5.9期 実績 (基準年比削減率)	目標達成 の判定
廃棄物 総排出量 (kg)	本社	3,697kg	3,874kg (+4.8%)	4,269.7kg (+15.5%)	△ 89.8%
	入善	782.7kg	775kg (△1.0%)	579.4kg (△26.0%)	◎ 125.2%
	高岡	978.6kg	935kg (△4.5%)	895.6kg (△8.5%)	○ 104.2%
	金沢	591.6kg	533.5kg (△9.8%)	679.35kg (+14.8%)	× 72.7%
	全社	6,049.9kg	6,117.5kg (+1.1%)	6,424.05kg (+6.2%)	△ 95%

総排水量の削減

項目 (単位)	所課	【基準年】 R3.9期 実績	R5.9期 目標 (基準年比削減率)	R5.9期 実績 (基準年比削減率)	目標 達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)			
						【基準年】 R3.9期 実績	R6.9	R7.9	R8.9
生活 用水	本社	112 m ³	108 m ³ (△3.6%)	112 m ³ (±0%)	△ 96.3%	112 m ³	110 m ³ (△1.8%)	105 m ³ (△6.3%)	105 m ³ (△6.3%)
	入善	81.3 m ³	36 m ³ (△55.7%)	37.1 m ³ (△54.4%)	△ 96.9%	81.3 m ³	35 m ³ (△56.9%)	35 m ³ (△56.9%)	33 m ³ (△59.4%)
	高岡	86.7 m ³	18 m ³ (△79.2%)	9 m ³ (△89.6%)	◎ 150%	86.7 m ³	10 m ³ (△88.4%)	9 m ³ (△89.6%)	9 m ³ (△89.6%)
	金沢	19.2 m ³	18.9 m ³ (△1.6%)	18.7 m ³ (△2.6%)	○ 101.1%	19.2 m ³	18 m ³ (△6.3%)	18 m ³ (△6.3%)	17 m ³ (△11.5%)
	全社	299.2 m ³	180.9 m ³ (△39.5%)	176.8 m ³ (△40.9%)	○ 102.3%	299.2 m ³	174 m ³ (△42.2%)	167 m ³ (△44.2%)	164 m ³ (△45.2%)
融雪 装置	本社	6,505 m ³	設定せず	2,834 m ³ (△56.4%)	—	6,505 m ³	設定せず	設定せず	設定せず
	入善	598.8 m ³	設定せず	849.8 m ³ (+41.9%)	—	598.8 m ³	設定せず	設定せず	設定せず
	高岡	740 m ³	設定せず	526.4 m ³ (△28.9%)	—	740 m ³	設定せず	設定せず	設定せず
	全社	7,843.8 m ³	設定せず	4,210.2 m ³ (△46.3%)	—	7,843.8 m ³	設定せず	設定せず	設定せず

金沢営業所に融雪設備なし

項目 (単位)	所課	【基準年】 R3.9期 実績	R5.9期 目標 (基準年比削減率)	R5.9期 実績 (基準年比削減率)	目標達成 の判定
総排水量 (m ³)	本社	6,617 m ³	—	2,946 m ³ (△55.5%)	—
	入善	680.1 m ³	—	886.9 m ³ (+30.4%)	—
	高岡	826.7 m ³	—	535.4 m ³ (△35.2%)	—
	金沢	19.2 m ³	—	18.7 m ³ (△2.6%)	—
	全社	8,143 m ³	—	4,387 m ³ (△46.1%)	—

これ以外の取組項目として、電話使用料、紙の使用量、受発注時におけるミスの防止によるロス等の削減に努め、概ね一定の効果をあげることができました。また、倉庫・事務所及び机回り・営業車における見える化（整理整頓）の実践、各種リサイクルとリユース、ボランティア活動の推進等、数値には表れないものの社内環境の改善、循環型社会への参加と協力、地域社会への貢献という側面では、当社の企業活動の全ての領域で取り組めたと認識しております。

又、当社では各月度毎に重点商品販売企画として、省人・省力化商材やカーボンニュートラルにつながる工程集約商品を拡販しました。具体的には産業用ロボットや周辺機器類、超硬切削工具、展示会出展新商品に加え、防災用品や暑さ寒さ対策商品の拡販等を全社あげて販売した結果、お取引先様各社に最新情報や商品を提供することができ、また、環境負荷低減に一定の効果があったと考えています。

尚、次年度の取組内容については当年度と同様とします。

②営業拠点別主要指標

令和5年9月期の各営業拠点別主要指標を下記にまとめました。

※構成人員数1人あたり

	年度	二酸化炭素排出量	廃棄物排出量	排水量
本社	R 2 年 9 月期	2,142kg-CO ₂	168kg	37 m ³
	R 3 年 9 月期	2,225kg-CO ₂	132kg	236 m ³
	R 4 年 9 月期	2,069kg-CO ₂	165kg	259 m ³
	R 5 年 9 月期	2,001kg-CO ₂	164kg	113 m ³
入善	R 2 年 9 月期	2,879kg-CO ₂	163kg	31 m ³
	R 3 年 9 月期	2,676kg-CO ₂	130kg	113 m ³
	R 4 年 9 月期	2,721kg-CO ₂	364kg	129 m ³
	R 5 年 9 月期	3,361kg-CO ₂	116kg	177 m ³
高岡	R 2 年 9 月期	3,047kg-CO ₂	131kg	4.4 m ³
	R 3 年 9 月期	3,657kg-CO ₂	163kg	138 m ³
	R 4 年 9 月期	3,085kg-CO ₂	266kg	142 m ³
	R 5 年 9 月期	2,787kg-CO ₂	149kg	89.2 m ³
金沢	R 2 年 9 月期	2,673kg-CO ₂	167kg	5.8 m ³
	R 3 年 9 月期	2,517kg-CO ₂	148kg	5.0 m ³
	R 4 年 9 月期	2,248kg-CO ₂	125kg	3.9 m ³
	R 5 年 9 月期	2,593kg-CO ₂	170kg	4.7 m ³

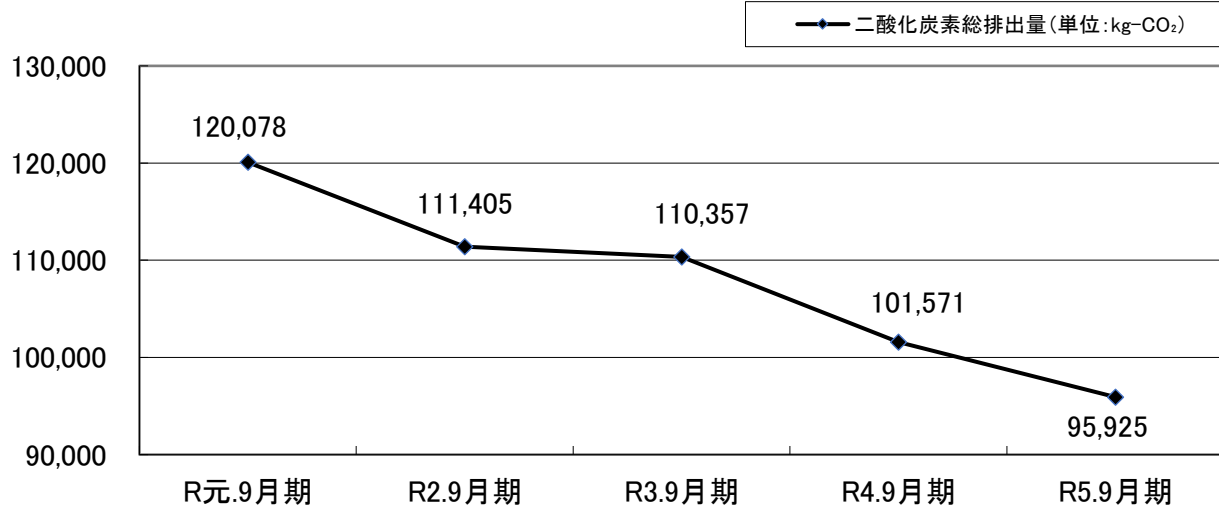
※売上高1百万円あたり

但し、金沢営業所には融雪装置の設備なし

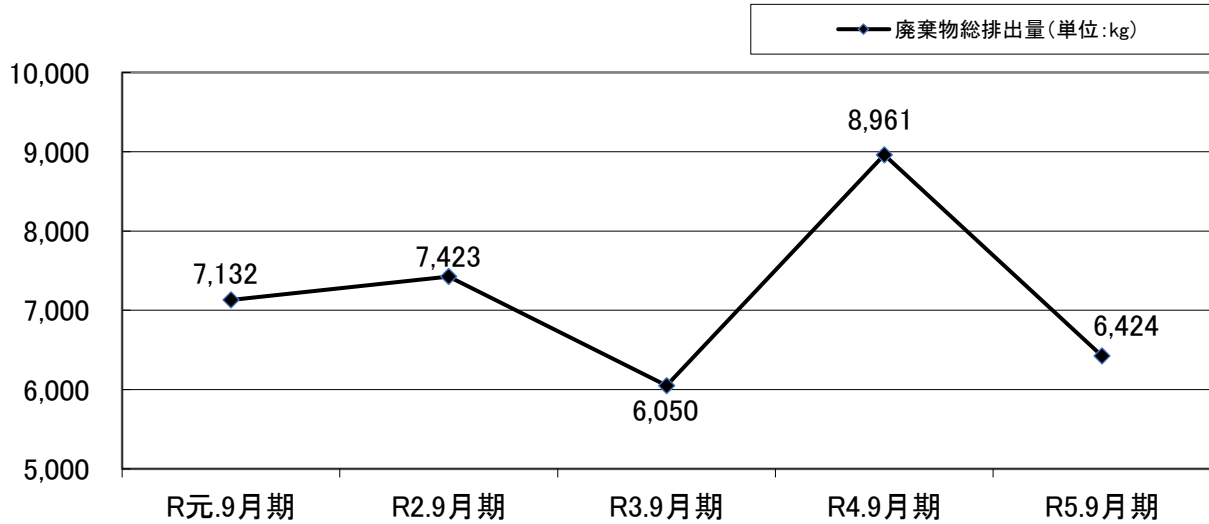
	年度	二酸化炭素排出量	廃棄物排出量	排水量
本社	R 2 年 9 月期	32kg-CO ₂	2.5kg	0.55 m ³
	R 3 年 9 月期	27kg-CO ₂	1.6kg	2.8 m ³
	R 4 年 9 月期	19kg-CO ₂	1.5kg	2.37 m ³
	R 5 年 9 月期	18kg-CO ₂	1.4kg	1.0 m ³
入善	R 2 年 9 月期	36kg-CO ₂	2.0kg	0.39 m ³
	R 3 年 9 月期	31kg-CO ₂	1.5kg	1.3 m ³
	R 4 年 9 月期	32kg-CO ₂	4.3kg	1.52 m ³
	R 5 年 9 月期	33kg-CO ₂	1.2kg	1.77 m ³
高岡	R 2 年 9 月期	26kg-CO ₂	1.1kg	0.04 m ³
	R 3 年 9 月期	33kg-CO ₂	1.5kg	1.3 m ³
	R 4 年 9 月期	16kg-CO ₂	1.4kg	0.75 m ³
	R 5 年 9 月期	23kg-CO ₂	1.2kg	0.73 m ³
金沢	R 2 年 9 月期	34kg-CO ₂	2.1kg	0.07 m ³
	R 3 年 9 月期	27kg-CO ₂	1.6kg	0.05 m ³
	R 4 年 9 月期	37kg-CO ₂	2.1kg	0.06 m ³
	R 5 年 9 月期	34kg-CO ₂	2.2kg	0.06 m ³

③環境保全活動の経過推移（全社過去5年のグラフ化）

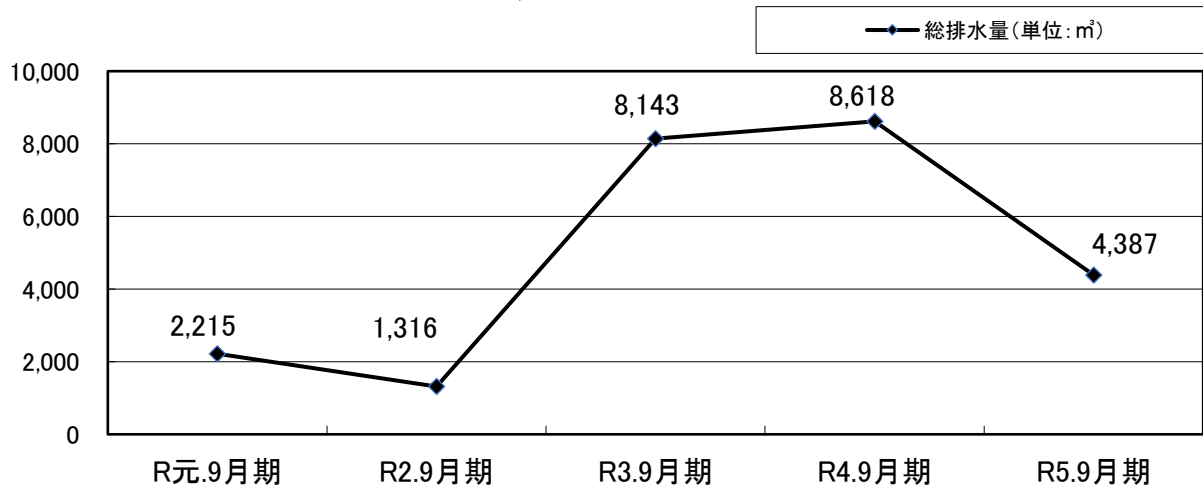
二酸化炭素総排出量推移



廃棄物総排出量



総排水量



5. 環境への負荷低減のための具体的取組と評価・次年度の取組内容

※次年度の取組内容については、当年度と同様とします。

項目	具体的取組	評価
使用電力量の削減	<ul style="list-style-type: none"> こまめな ON・OFF を心がける。 不要箇所の消灯（トイレ・商談ルーム・倉庫使用时以外の消灯） エアコン使用時はブラインドを下げる エアコン使用時、玄関ドア閉 エアコン・ヒーターの最低限の運用（室温：夏 28.0℃ 冬 20℃ 設定） 夏場、屋外の気温が低い時はエアコン OFF（夕方） 蛍光灯のこまめな ON・OFF 外出時、該当エリア消灯の厳守 昼休み、夜の不要箇所消灯 自動ドア・倉庫シャッターの最低限の運用 冬場での業務用ヒーター1 台のファンヒーターへの切換えによる削減を継続する 	<ul style="list-style-type: none"> 入善は冬季の電力使用量管理の徹底で 118.3%と目標達成。 高岡は1月から3月の暖房時のエアコン運用管理が不十分で 94.9%と未達。 金沢は夏と冬のエアコン使用月の目標設定と運用管理が甘く、66.4%と大きく未達。 本社は確実に削減しており、エアコンと暖房機器の効果的な運用を継続する。
灯油使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 社内暖房に使用。（但し、極力エアコンを優先） 事務所内温度 20℃にあわせた設定温度調整とこまめな運用 太陽熱を利用し、晴天時ブラインドを下げない 各個人の衣服による調整で暖房対策をする 事務員のみの場合小型ストーブの使用（営業所の場合） 	<ul style="list-style-type: none"> 全拠点でのエアコンシフトによる必要最低限の使用と高岡での目標 165.7%の大幅な達成で、基準年の令和3年度比半減。
LPG使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ガスコンロ使用時は炎を鍋底より内側に設定し蓋をする。 ヤカンの外回りの水滴を拭き取ってから火にかける。 使用後はガスの元栓を閉める。 給湯器の種火は、使用時のみ点火。 消し忘れがないか朝礼前、朝礼・昼食後にチェックする 電気湯沸かし器の活用 夏場のお茶づくりのタイミング（回数・量）の調整 	<ul style="list-style-type: none"> 金沢で 81.0%と目標未達だったが、他拠点での目標確保により、全社では 115.3%と達成。を全営業拠点で目標達成。今後も効率的な運用を維持・継続する。
ガソリン使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 「エコドライブ 10 のススメ」の励行 カーエアコンの適正使用 ガソリン燃費表を記録し、前年同月と比較して燃費への意識向上に努める 重量 20kg 以上の荷物はユーザー直送 車内の不要な荷物（カタログなど）を降ろす 走行距離、平均燃費の月次比較、全体平均燃費を書き込む（上位3名を発表しモチベーションアップ） 各自効率の良い営業ルートの確認 ユーザー構内はなるべく歩いて回る 	<ul style="list-style-type: none"> 当社にとっては環境負荷に対するウエイトが最も高い項目のため、基本的な取組を再確認と徹底を継続する。 車両別の月次給油量を全社回覧とし、前年度比や他車両との違いを全員で認識する。 高岡が 86.0%と大きく目標を未達。最適ルートでの運行とエアコンの適正利用を徹底する。
紙類（廃棄物）	<ul style="list-style-type: none"> FAX、プリンタ用紙等裏紙の再利用 メール活用によるペーパーレス コピー・プリントアウトは内容確認の上判断 段ボールは極力客先での処理を心がけ、納品時にも活用する カタログを取り寄せる時は社内ストックの有無と数量を確認の上最適数を取寄せし、速やかに配布する 過剰梱包をなくすよう、仕入先へ依頼する FAX 通信書の再利用 見積書作成時の入力ミスの削減 段ボール、新聞紙のリユースをする 古いカタログはメーカーや仕入先に返却する。 受領したカタログ・チラシは極力全数ユーザーへ配布するよう心掛ける 	<ul style="list-style-type: none"> 本社は再利用できない大きな段ボールの増加により 94.8%と目標未達。 金沢は保有カタログの整理整頓による予定外の廃棄があり、71.0%と大きく未達。 段ボールのリユースと必要な数のカタログ確保とユーザーへの全数配布を再徹底する。 裏紙利用と安易なコピー、プリントアウトをしないことを強く認識する。

項目	具体的取組	評価
事業系 一般廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル可能なものが事業系一般廃棄物に混入していないか、分別間違いがないかを確認する。 できるだけ外部よりゴミを持ち込まないように注意する 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物量削減のいろはの「い」は分別と考えます。リサイクル可能なものの混入防止を強化。
産業廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> 新品納入時、旧商品の引き取り要求が納入先からあればメーカーに引き取ってもらう。 やむを得ず発生した廃棄物は担当責任者に連絡、判断を仰ぐ。 修理品の引き受け時は、修理不能と判断された場合の対応も考えて交渉する。 エアパッキン類はエアーを抜く リユース可能な緩衝剤混入のチェック 	<ul style="list-style-type: none"> 高岡で前年度の事務所リニューアル時の廃棄物が見つかり、目標達成率0%。他の拠点も緩衝材の削減ができず、未達となる。
生活用水	<ul style="list-style-type: none"> 社内見廻しでの給排水箇所の確認 無駄な水の利用者には即口頭注意 清掃時等のバケツ使用の励行を促す 融雪装置ノズルの清掃・点検（年1回） 蛇口の閉め忘れがないかチェックする 水道メーターの定期的なチェックと使用状況の周知 週に一度使用量を確認し節水への意識を高める 手洗い、うがい時は水を流しっぱなしにしない 	<ul style="list-style-type: none"> 入善で漏水対策を11月に実施し、実使用量となる。 高岡は前年度実績値から改善し、150%の目標達成となる。 無駄な水の使用をしないという基本を徹底する。
融雪装置	<ul style="list-style-type: none"> 融雪装置については従来通り最低限の運用を継続 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 冬期間中は天気予報を毎日チェック 降雪時、もしくは降雪が見込まれる時のみ稼働 電源は夜にオン、朝にオフ 日中は地熱利用による自然融雪を心がける センサー感度を過剰にしない </div> 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な取組を徹底継続し、最低限の使用とする。 融雪装置使用前でのノズルのチェック、清掃、調整を徹底する。

6. 緊急事態への準備、及び対応

前年度に実施できなかった高岡営業所の消火訓練を3月21日（火）に実施した。次年度は3月30日（土）の会社全体会議後に実施することで計画する。

7. 環境関連法規への違反・訴訟等の有無

当社に適用される環境関連法規については、環境基本法、地球温暖化対策の推進に関する法律、大気汚染防止法、浄化槽法、土壌汚染対策法、廃棄物処理法、循環型社会形成推進基本法、資源有効利用促進法、容器包装リサイクル法、家電リサイクル法、グリーン購入法、自動車リサイクル法、消防法や各市町村火災予防条例について、遵守状況を検証・確認した結果、取組期間中、環境関連法等への違反・訴訟等はありませんでした。尚、過去5年間にも違反等はなく、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

当期は自動車業気を中心に半導体不足による生産調整が見られたものの当社売上高は約45億円と高水準で終了することが出来た。EA21の活動状況は、マンネリ化が散見されるものの日常活動の中での活動意識は全社員に浸透していると感じている。

その結果、当該年度のCO2総排出量は前年比▲5.6%と低下し、令和元年度からも連続して低下傾向を示している。一方廃棄物総排出量は書類整理や事務所の改修で大きく振れているが、ITツールを活用し紙ベースでの管理を少なくするよう意識を高めていくことが肝要と考えている。総排水量は融雪装置の稼働状況に圧倒的な影響を受けるものの機器点検をしっかりと行い水漏れ等の不具合を極力少なくしていきたい。

令和5年12月

山崎機工株式会社 代表取締役社長 山崎 均